

「プロジェクトWET講習会」

1. 日 時 平成20年1月20日（日）10時～17時 （受付：9時40分～）

2. 場 所 遠賀川水辺館 2F 「めだかホール」

3. 講 師 高橋先生（ファシリテーター）、淵上さん（補助：エデュケーター）、
石丸さん（補助：エデュケーター）

4. 受講者

| | | |
|-------------|-------------|--------------------------|
| 川内先生（感田小） | 天井さん（近畿大学） | 迫村さん（福岡ECOコミュニケーション専門学校） |
| 平山先生（二瀬中） | 網本さん（近畿大学） | 瀬戸さん（福岡ECOコミュニケーション専門学校） |
| 茂手木先生（足白小） | 坂本さん（近畿大学） | 川島さん（福岡ECOコミュニケーション専門学校） |
| 斎藤先生（伊左座小） | 金田さん（近畿大学） | 太田さん（福岡ECOコミュニケーション専門学校） |
| 山中先生（赤池中） | 山口さん（近畿大学） | 小川（遠賀川河川事務所） |
| 青木先生（希望が丘高） | 伊知地さん（近畿大学） | 丸山（遠賀川河川事務所） |
| 下村さん（九州工業大） | | |

5. 事務局

平松（遠賀川河川事務所） 河崎（遠賀川河川事務所） 土井（（財）河川環境管理財団）

6. スケジュール

| | | |
|---|--|-------------|
| 1 | 主催者挨拶と趣旨説明 | 10:00～10:05 |
| 2 | プロジェクトWETについて（高橋先生） | 10:05～10:15 |
| 3 | 「雨降って地固まる」 *日本のことわざを絵に書いて相手に当てさせる。 | 10:15～10:40 |
| 4 | 「殺人鬼は誰だ？」 *ヨーロッパで実施に起こったコレラの流行をゲーム形式で発生源等を考える。 (汚染されていない水の大切さを学ぶ) | 10:45～11:30 |
| 5 | 「塵も積もれば」 *模造紙に自由に絵を書かせ、各施設からの汚濁が下流では莫大になる事を知り、 各個人が出来る事を考えさせる（一人一人のちょっとした心掛けの大切さを学ぶ） | 11:30～12:30 |
| | (昼食) | 12:30～13:10 |



WETの目的・概要を説明（高橋先生）



雨降って地固まる



**塵も積もれば
(川の側に自分の理想の街を建設)**



**塵も積もれば
(街から出る環境負荷量をおはじきで表現)**

| | | |
|------|--|-------------|
| 6 | 「驚異の旅」 *水が移動する空間等(海・雲・植物など)をさいころを使って移動する。 (水の循環を学ぶ:汚れた水は自分に還る。) | 13:10~14:10 |
| (休憩) | | 14:10~14:20 |
| 7 | 自由課題 (各班ごとに分かれ、受講者が講師役になる) ① 水の住所 ある動植物の特徴を教え、どこに棲んでいる何か当てさせる。 ② 大海の一滴 地球上にある水のほんの一部しか使えない事を実験する。 ③ 水のオリンピック 水の表面張力を班毎に競わせる。 ④ アクアボティ 動植物の水分含有量を絵にして考えさせる。 | 14:20~16:20 |
| 8 | まとめと終了証交付 | 16:20~17:00 |



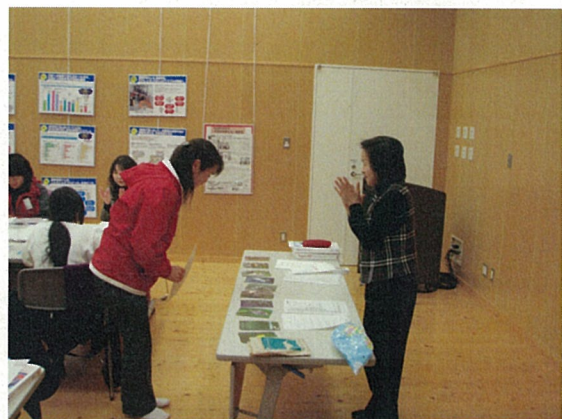
驚異の旅



大海の一滴



アクアボティ



終了書授与

プロジェクトWET

(プロジェクトWETとは?)

プロジェクトWETの「WET」とは、「Water Education for Teachers: 教師のための水に関する教育プロジェクト」の略で、教育活動を通じて、水や水資源に対する認識・知識・理解を深め、責任感を促すことを目標として開発された「水」に関する教育プログラムです。なお、ここでいう教師とは、学校の先生に限りません。

(特徴は?)

教師が一方向的に知識を与えるのではなく、子供達自身にアクティビティ(活動)を実践しながら、「水」そのものや、その重要性について考え、学んでいきます。

(対象者は?)

幼稚園児～高校生

(どうやって使えるの?)

6時間の講習を受けると、プロジェクトWETのエデュケーター(教師)の資格が取れ、91のアクティビティ(学び方)が記載されたマニュアル本がもらえて、各学校などで自由に使えます。

水について、楽しみながら学べる 91のアクティビティ

プロジェクトWETには、ここにご紹介するアクティビティを含めた91のアクティビティが盛り込まれています。

アクアボディー

Aqua Bodies



自分の体の輪郭を描き、人間の体のどこにどのくらいの水が含まれるのかを考えていきます。人間の体を構成する水の量や、生きていく為に必要な水の量を感覚的に捉えることで、人間が生きていく中で水は必要不可欠なものであること、生命は水にいかに依存しているかを学んでいきます。

塵もつもれば

Sum of the Parts



川岸の土地をいくつかに分けて、それぞれ土地の利用方法を自由に計画してから、その計画が川にどのような影響を及ぼすか考えていきます。様々な水の汚染原因や経路を知り、川を流域として捉えることで、川や水環境を保全する責任は全ての人にあることを学んでいきます。

驚異の旅

The Incredible Journey



子どもたち自身が水の分子となってサイコロを転がし、出た行き先に移動することを繰り返すことで、水循環内の水の移動を体験します。水循環を体感しながら、水は様々な状態にあること、水の移動経路は単一ではないこと、移動しながら重要な役割を果たしていることなどを学んでいきます。